

豊かな表情、信じられないほどの技術、そして、笑顔… 世界で話題をさらったヴィルトオーゾが魅せる ショパン・プログラム

本来2020年に行われる予定であったがコロナ禍により1年延期し、さらにはライブ配信もされたことにより過去最高の注目を浴びた今回のショパン・コンクールで、日本人2名の素晴らしいパフォーマンスと並び、ここ日本でも特に話題になったのが、スペイン生まれの若きヴィルトゥオーゾ、マルティン・ガルシア・ガルシアである。ピアノを弾くことを心から楽しむ様子を、この究極とも言えるコンクールで発揮できる彼の才能に、多くのファンが惹きつけられた。

このピアニストの特徴のひとつは、そんな豊か過ぎる表情(時に本人が歌ってしまうほど!)の裏にある、極めて安定したテクニックだろう。国際コンクール上位入賞者ともなれば技術が高いのは当たり前ではあるが、ガルシア・ガルシアの鍵盤に手が張り付いたような、芯のある技術はそうそう見られるものではない。一聴すると破天荒に聴こえるその音楽も、極めて高い技術、丁寧なタッチにより美しく束ねられている。その水準は、ため息が出るほどだ。

その彼を早速日本で、しかもオール・ショパンで聴ける幸運を逃す手はない。あの豊かな表情、そして笑顔で、音楽の楽しさを改めて私たちに教えてくれるだろう。



マルティン・ガルシア・ガルシア *Martín García García plays Chopin*

マルティン・ガルシア・ガルシア(ピアノ)

Martín García García (Piano)

マルティン・ガルシア・ガルシアはスペイン、ヒホン生まれのピアニスト。5歳からピアノを始め、ナタリア・マズーンとイリヤ・ゴルドファーブの元で学ぶ。レーナ・ソフィア音楽学校を卒業、ソフィア女王から最優秀学生賞を受ける。彼はまたニューヨークのマネス音楽院の修士号も取得している。

マルティンは、いくつかの国内、国際コンクールで第1位を獲得、ハイライトは2021年クリーブランド国際ピアノコンクールで優勝、そして世界の檜舞台で最重要の第18回ショパン・コンクールでは第3位と最優秀協奏曲特別賞を受賞する。2018年ニューヨークで開催された

国際キーボード・インスティテュート&フェスティバルで第1位を獲得、同時にそこでの奨学金を得ることになる。彼は、ソリストとしてヨーロッパとUSAの会場でコンサートを開催、ウラジミール・クライネフ、ドミニター・アレクセーエフ、アルカーディ・ヴォロドス、ディミトリ・バシキロフ、ホアキン・アチューカロ、タチアナ・コープランド(セルゲイ・ラフマニノフの姪)などの音楽家、ピアニストから非常に高い評価を受けている。

2021年10月ワルシャワで開催されたショパン・コンクールで成功を収めたマルティンは、日本、ヨーロッパ、USAでいくつかのツアーが企画されている。彼は現在ニューヨークに在住、以来著名なピアニストであるジェローム・ローズに芸術的訓練を継続して学んでいる

●近郊公演のご案内

6/3(金) リサイタル 東京オペラシティ・コンサートホール 問・日本アーティスト 03-5305-4545